

# UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 117 Dec. 25, 2020

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議 日本支部

## ■主な内容

### ・みらくル TV 首都防災ウィーク

みらくル TV 「UIFA JAPON の活動—コミュニティのレジリエンス（回復力）を後押しして—」を視聴して／UIFA JAPON の被災地支援活動—「みらくル TV」の発表を契機に考えたこと／フランス在住の視聴者からの感想

### ・オンライン講演会「熊本豪雨災害について」

### ・特集：コロナ禍での会員の日常（2）

コロナ前コロナ後／社内の力をため込んだ時期／コロナ禍の中の大学から／2020 年、温故知新で乗り切ろう

### ・第 1 回 Web 交流会

「クルージングとヴァナキュラーな住まい〜カリブ海、地中海、カナリア諸島等〜」



熊本豪雨後の青井阿蘇神社前の堀の様子 —8 月には蓮の芽が出ていた—佐藤哲熊本県立大学准教授撮影

## みらくル TV 首都防災ウィーク

## Tokyo Metropolitan Disaster Prevention Week on "MIRAKURU TV"

「首都防災ウィーク」は、2013 年に関東大震災 90 周年を機に、墨田区の横網町公園で始められ、UIFA JAPON は当初よりお抹茶による災害復興を考える茶席を開くことで協力し、中林一樹教授、木谷正道氏などによる実行委員会にも森田美紀会員や稲垣弘子会員が参加してきた。2020 年度はコロナ禍により公園での公開イベントは中止し、「みらくル TV」の一部として 9 月 1 日～6 日の無観客フォーラム等が配信され、UIFA JAPON は 9 月 2 日（水）19:30 から約 1 時間で、災害復興支援等の取り組みを発表する機会を得た。この番組はその後 Youtube において、一般公開されている (<http://miracletv.site/?p=4987>)。

ここでは、その発表の報告と、UIFA JAPON の災害復興支援について、松川会員が「発表を契機に考えたこと」、フランスから視聴した成瀬弘さんの感想の紹介を 2 ページにまとめて掲載する。 (宮本 伸子)

A Metropolitan Disaster Prevention Week event is held at Yokoamicho Park in Sumida-ku, Tokyo, on Disaster Prevention Day in September.

UIFA JAPON holds a tea party every year, providing a place to discuss disaster prevention with visitors.

In 2020, the event was held online and introduced the activities of UIFA JAPON. (MIYAMOTO Nobuko)

## みらくル TV 「UIFA JAPON の活動—コミュニティのレジリエンス（回復力）を後押しして—」を視聴して 清本 多恵子

Restoration Assistance by UIFA JAPON  
Broadcast on "Mirakuru TV" KIYOMOTO Taeko

オンラインによる「UIFA JAPON の活動—コミュニティのレジリエンス（回復力）を後押しして—」と題した発表を仙台の自宅にて拝見した。

最初に UIFA JAPON について。1963 年、パリの UIFA 創設に日本から参加し、1993 年には日本支部も結成。

続いて、自然災害被災地・被災者支援について。2004 年、「災害復興見守りチーム」を立上げ、中越地震では、新潟県長岡市小国町法末地区にて活動した。又、各地で「どこでもカフェ」を設け、「女性の建築家」らしいおもてなしを行った。岩手県岩泉町での「だれでもフォトグラフィア」の活動は自主撮影会と写真展を継続し、復興記録「明日の岩泉へ」に写真が多数収められた。2016 年に起きた熊本地震では、上益城郡御船町を起点に活動が行われた。更に、2016 年台風 10 号被災の岩泉町、2019 年台風 19 号被災の宮城県丸森町、2020 年熊本豪雨被災の八代市など、各地域に支援を行った。これらについて担当した会員がリレー方式で、各々のパソコンから話す。何度も練習したそうだが、無事滞りなく放映された。

●被災した人々に寄り合う●現地の人と連携する●被災した人々の自立とコミュニティの再建を支援する、という 3 点を基本理念として活動してきた「被災地支援活動」だが、「支援というより、交流であった」と、という言葉が、控えめながらも一貫して、被災者の目線に立ち、継続してきた UIFA JAPON の活動を表しているように感じた。

I watched our support activities on online TV in Sendai. In 2004, we set up the Disaster Reconstruction Support Watch Team for the Niigata Chuetsu Earthquake. In addition, we hosted Dokodemo Cafes in various places and provided hospitality as female architects. The activities of the Everybody's a Photographer initiative in Iwaizumi Town continued with a voluntary photo session and a photo exhibition, and many of the photographs were included in the Iwaizumi reconstruction album Tomorrow's Iwaizumi. After the 2016 Kumamoto-earthquake, we carried out support activities. We also provided support for flood disaster areas.

● Being close to the people affected by the disaster  
● Collaborating with local people ● Supporting the independence of the people affected by the disaster and the reconstruction of the communities are the three basic principles of our support activities. I felt that the words, "It was more like an exchange," were modest but consistent. Somehow this box size changed and the text isn't fitting properly now... from the perspective of the victims, and represented the ongoing activities of UIFA JAPON.





UIFA JAPON の被災地支援活動―「みらくル TV」  
の発表を契機に考えたこと 松川 淳子  
Reviewing UIFA JAPON's Disaster Area Restoration  
Assistance through Online Presentations

MATSUKAWA Junko

「首都防災ウィーク」の実行委員を務めている監査役・稲垣さんの指揮で、UIFA JAPON の「被災地支援活動」をオンラインで紹介することになった。分担して原稿を作成し、担当してくれる方を決め、「発表練習」も何回か繰り返し、修正を加えながら、9月2日の「発表」にこぎつけた。UIFA JAPON がチームとして初めて被災地支援に取り組んだ中越地震からすでに16年、東日本大震災から約10年が経過したいま、私たちの活動を振り返るよい機会にもなった。

発表のなかでも話したことだが、冷静にみると、私たちの活動が、本当に被災地の助けになったのかどうか、心許なく思うこともあり、それが『支援』というにはおこがましく、むしろ『交流』という方が適切かもしれないという私の発言になった。「被災者支援」でヒーローを気取るつもりはさらさらないし、皆で一生懸命やってきた活動を卑下したり、後悔したりしているのでもない。建築や都市の創造や研究に関わる団体として、災害をそもそもなくす方法を模索しながらも、これまで創ってきた都市や建築の後始末も見届けようとする私たちだが、もしその途中、道端で倒れている人をみかけた時、そのまま通り過ぎることができるかどうか、という問いは常に目の前にある。放っておけないときにどうするか。自然災害が多発するいま、今後も覚悟を新たに私たちらしい「支援」に取り組むたい。

Sixteen years have passed since UIFA JAPON first offered support to affected areas. I appreciated this TV show, which gave us a good opportunity to look back on our past activities.

Considering our activities, I sometimes feel insecure about whether they are really helping the affected areas. Those feelings led me to say in my presentation, "It would be appropriate if UIFA JAPON conducts communications with the local residents in the affected areas, instead of providing support for them." Of course, we do not have any motivation to act as heroines for restoration assistance, nor do I mean to belittle or regret the hard work we have all done.

As an organization of professional women in architecture, urban planning and research fields, we have been exploring ways to eliminate disasters while trying to imagine the future of cities and architecture, which we have been committed ourselves to. However, if we find someone falling down on the way, can we pass by without lifting a finger to help? What should we do if we choose not to abandon someone to this state?

In the midst of frequent natural disasters, we would like to once again brace ourselves to continue our efforts to provide restoration support in our own way.

プレゼンテーション最終ページ

2013年 岩泉町仮設住宅に住民と集う UIFA 会長と成瀬氏

フランス在住の視聴者からの感想  
Comments from Viewers in France

森田 美紀  
MORITA Miki

今回、Zoomでの発表ということもあって、遙か彼方のフランスから成瀬弘氏（2013年 UIFA JAPON 設立20周年にド・ラ・トゥール UIFA 会長に付き添い来日）が参加し、感想を寄せてくれた（『J』内、成瀬さんの言葉）。

成瀬氏はフランス在住で建築家でありながら、ランドスケープアーキテクトのお仕事もされている。

『UIFA JAPON の活動がどんなものか良く分かりました。こういった活動があちこちで起きることはとてもいいことだと思います。』

いま自分の最大の関心は、災害が起きた時に耐えられる土地利用計画、建築をどのように造るか、災害が起きにくい自然環境の整備をどのようにするかです。テーマが大きすぎてどこから手をつけたらいいのかわかりませんが、一歩でも進められるきっかけを作れたらと思っています。』

首都防災ウィークの趣旨は「関東大震災を学び、伝え、被害を軽減し、いのちを守る人の輪を拓ける」とあって、毎年東京慰霊堂のある横綱町公園で開催されてきた。

私は人々の笑顔が好きだ。平穏な毎日が続くことを願っている。できれば災害は起きて欲しくない。一人ではできないけど、みんなで力を合わせればできることはきっとある。人々の笑顔を取り戻すために。

Because our presentation had to be online, Hiroshi Naruse gave us his comments from France.

Mr. Naruse lives in France and is an architect, but also works as a landscape architect. In 2013, on the 20th anniversary of the establishment of UIFA JAPON, Mr. Naruse accompanied the president of UIFA, Solange d'Herbez de la Tour, to Japan.

Mr. Naruse told us, "I understood the activities of UIFA JAPON. My biggest interest now is how to make disaster-resistant land-use plans and buildings. This is a method to improve the natural environment that can reduce the risk of disasters."

The purpose of the Metropolitan Disaster Prevention Week is to "learn from the Great Kanto Earthquake, reduce damage, and expand the circle of people who protect life."

I like people's smiles. I hope that peaceful days will continue. I hope no disasters will occur. We can't do it alone, but we can do it together, to regain people's smiles.



御清聴ありがとうございます  
(岩泉町小本仮設住宅集会場 フランスからUIFA会長等参加)